THE WOMAN'S WEEKLY

第貳卷第四十八號

大正五年十一月廿四日發行（毎週金曜日發行）

大正四年十一月四日第三種郵便物認可

婦人週報

本號目次

□結婚難……小橋三四子
□時事週評……
□婦人の運命……新渡戸稲造
□一人一評＝德富つる子……
□一夫一婦制……山脇玄
□思ひ切つた亞米利加婦人……片山みさ子
□遺愛のギタ……民子
□初めて議員になつたランキン女史……
□歸朝せる本野氏夫妻……冬湖
□職業案内 順潮に運んだ私……井出茂代
□頭腦の經濟法……澤田斬雲
□花模樣の色紙利用……大村嘉代子
□やさしい洋風の料理……川中雪子
□オハナシ 信ちやんの信子さん（下）……花巌
□小說「暗調」……高田てい子
□讀者から……
□時事……編輯室より……

定價一部四錢五厘 郵送料五厘

婦人週報社

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

權威ある
化粧料は

品位ある
淑女を作る

過酸化水素と美顔原料數種を
化學的に化合させた最新式の
白美衛生美容素で本當に素顔
の色、艶を良くします。

本舗
東京赤阪溜池
オキシナー商會
電話新橋三六二六
振替東京三四〇〇九

定價　大四十錢　小廿錢　送料＿各四錢

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

結婚難

親達の交際を廣めよ

□婦人の一大事業

婦人が立派な配偶者に出遇ふ事は、眞に一大事業であります。今日教育ある婦人が、理想は高尚に導かれて居つて、心には萬々「あゝしたいかうしたい」との希願を持ちながら、昔ながらの社會の風習に縛られて、親や先輩が寫眞を持ち回り、其の緣談を品物の周旋のやうに取扱つて居るさまをじつと傍から見て居つて、かうして自分の大事な運命が作られて行くのかと思へば、堪らぬ氣が致されませう。殊に一と度會談すれば、無言の間に溫情の親しむべきものが溢れ出で、、其の容姿を超えて、眞情に接し合ふ事も出來ませうが、寫眞の上では、只冷たい容貌を見る丈けで、自然人々は外形の評をのみ下し勝ちになります。

□新聞雜誌の務め

いつ迄こんな不合理な結婚法に滿足しませう。さればと云つて所謂お轉婆の娘でない限りは勝手に男子と交際を結ぶ等といふ事も、致し難いことでありませう。それ故この風潮を改むるには、社會の木鐸となる新聞雜誌等によつて、一日も早く舊習を打破し、新らしい方法に就て、暗示を與へることが出來れば、一番社會の幸福であらうと思はれます。殊に男女の貞操問題を叫び、一夫一婦を社會に問ふに於ては、先づ愛なき結婚に甘んずる今日の風習を一變しなければ、到底根底からの廓清を促がす事は出來ないと思はれます。

□親達の交際

然らば結婚法に就ての新らしい方法は、どうかと問はれませう。私の考へには、今日の娘のみならず、親達の交際法を先づ改良しなければならないと思ひます。お客を招くとか、お客に行くとか云ふ事は、中流の家庭では殆どしない事になつて居ります。それと申すのが、お客は馳走を以て饗應する以外には、待遇の仕方は無いものと思つて居るので、自然費用も嵩み、面倒にも思ひ、生活に追はるゝ中流に於ては、そのやうな事は爲すべからざる事として居ります。それ故何處に娘があるか、何處に息子があるかも知らずに過して居る場合が多く、いざ我が子女が年頃となつたとすると見知らぬ人に寫眞を托して、周旋を賴まねばならぬ事になります。

□賢い方法

私の知人に娘さんを澤山持つた方がありますが、女學校の四五年頃になりますと、母親は盆暮れの他家への挨拶には、いつも娘さんを連れて歩かれます。これは一つは他所の家風を見たり、挨拶振りを自然に習はせやうとの考へもありませうが、「彼處のお孃さんももうあんなに御成人なすつたか」とて、其の人柄等を知つて居て貰へば、自然本人の趣味に叶ひさうな結婚候補者の世話を賴まれるといふのでせう。これなどは餘り目障りにもならぬ賢い方法を取つて居る事であるとぞんじます。

□客の手輕い饗應法

交際を手輕く愉快にする習慣がつけば、忙しい主婦同志も、少しの暇を作つて往來を樂しむやうにもなりませう。母親の交

一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

際の廣くなる事は、娘にとつて第一の味方が殖えた事になるので、これによつて娘も母に伴はれて、其の紹介によつて、廣く男子の方々とも危げのない交際の道が開かれて行きませう。なほ各家庭に於ては、主人の誕生日とか、天長節、クリスマス等に、夫の同僚や、娘、息子の友人を招いて、中流家庭としては、稍大仕掛けのお客をして見るのも面白いでせう。西洋人が時々小さな家で數十人のお客様を招いて、晝飯を御馳走するなど丶云ふ時に、どうする事かと見て居ると、手輕にサンドウヰチに、サラド位で、樂しく談笑して濟して居るのを見ると、日本の御馳走振りは、いかにも凝り過ぎて、あれでは臆劫に思ふのも當然だと思はれます。

□男女交際の端緒

更らに地位もあり、財力も富裕な家に、もし心ある婦人があれば、其の家庭を日曜の午後、もしくは祭日等に公開して、確かな家庭の息子、娘、或は其の親達を招いて、交際會を催し、男女交際の端緒を開いて下されば、一般の若い男女にとつて、大層有難いことであらうと存じます。長井博士の御家庭等では、既に何年來か日曜毎に家庭の交際會が行はれて居り、先年結婚された令息の夫人も其處で知り合ひになられたのだと申します。かやうな方法が中流社會に迄及んだら、至難中の至難事たる男女交際の端緒も開け、結婚の根本的改良も行はるゝに至るのは、必ずでありませう。(三四子)

時事週評

□藝術に國境無し　十六日皇后陛下には上野音樂學校に行啓、御前演奏を聞し召されましたが、時節柄獨逸の曲目を御遠慮申上げました處、陛下には、「何故獨逸の名作を演奏せざるや、藝術の上には國の別なし、今日世界の名作家を網羅したる此の曲目中に獨逸の名作を逸するは物足られば、是非一曲所望したし」との畏き仰せに、湯原校長は恐懼措く所を知らず、早速講師小倉すゑ子に命じ、シユーマンの作「鳥の豫言者」を演奏せしめたので、陛下には頗る御滿足に思召されたとの事は、近頃美しき御物語で、陛下の御言葉は眞に世界に誇るに足ることでございます。我が國の音樂界は由來獨逸に負ふ處が多いので、幸田女史安藤夫人を始め其の他多くは獨逸に留學、其の技を磨かれたのであります。もし交戰國なる理由の下に、獨逸物を禁ぜられたとすれば、音樂界は極めて寂寥なものとなりませうに、陛下の有難き思召により、藝術は藝術として、たとへ敵國のものたりとも自由に其の價値を學ぶ事が出來るのは、國民の感謝し奉らねばならぬ所でございます。

□三泰斗の訃　米國の天文學者として世界に其の名を知られたるローエル博士は十二日六十一歳を以て長逝し、佛國の畫伯にして我が洋畫界の恩人コラン翁は去月廿日六十七歳を以て巴里に逝き、近く波蘭の文豪ヘンリック、シエンキウイッチ氏は、十五日、瑞西の一旅館に七十歳を一期として逝かれたのは、何れも生前の事業に親しめる邦人にとつて、大なる損失を覺えます。殊にコラン翁の「彈手」は「春の光り」と題して、本年一月の時事新報附錄として、普ねく人々の目に觸れ、シエンキウイッチ氏の「何處へ行く」は、この兩三年活動寫眞として盛んに行はれ、小學校の兒童等に迄知られて居ります。而して浩幹なる構想と、宗教的情調の溢れたるその作は、我が忠臣藏の如く、愈よ讀んで愈よ盡きざる興味を覺えつゝ、作者をも亦我が隣人の如く慕はしく思つて居りましたのに、今日の訃を聞いて、眞に親しい者を失つた如き感があります。

□本野子夫妻の歸朝　十九日夜の東京驛前は、千餘名の紳士淑女に時ならぬ春が來たやうでありましたのは、云ふ迄もなく前駐露大使本野子夫妻の歸朝を迎へんとてゞありました。同大使が日露の親善を計る上に、多大の功勞ありしは申す迄もなく、外交家としての敏腕も既に定評があります。而して久子夫人の日本婦人には稀らしい精力と、誠實の籠つた巧みな外交振りとは、大使の片腕として、無くてならぬものであつたでせう。新らたに此の夫妻を迎へた我が霞ケ關には、一陽來復の趣があります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人の運命

智識と共に開拓される

農學博士 法學博士 新渡戸稲造

□運命の範圍

世間の人が謂ふ『運が善い』『運が惡い』と云ふ運と謂ふ事は、何れも人力をもつて如何とも爲る事の出來ない事を指して居るのである。即ち期待以外のものに接した時に、何事も皆『運』であるとして居る。次に『運命』とは天の運が命ずる命令であつて、これ亦男女老若の差別なく、如何にしても、これから逃れる事は出來ないものとなつて居る。而し、私は學術の進歩によつて、今日では此の運命の範圍が餘程狹められたやうに思はれる。今から三十年前に虎疫の流行した時などは、實に見るも悲慘な程端から斃れていつたのが、本年あたりは醫學も進歩すれば、一般の衛生思想も進んで來た爲めに、各自が豫防して、危險に近寄らないやうに努めたので、病勢の强かつた割に罹病者も少なく、又これに侵されても全快する者が多くなつて來た。これ等は全く學智の進んだ爲めに、昔は何の豫防も知らずに運命なりとして受けなければならなかつた災害を、防ぎ得たものであると思はれる。

□結婚と婦人の運命

一口に運命と謂へば、何故か人は辛いもの丶やうに考へて居るが、私は其の辛い運命をも、亦學問の力に依つて開拓して行く事が出來ると思ふ。私は今日婦人と云ふものを深く知らない研究をした事も無いから、婦人が果して如何なる運命に導かるべきかも述べる事は出來ないが、先づ今日の學校に於て、良妻賢母主義の教育を受けて居るものと見做して皆さんを觀た時に、皆さんは又當然嫁すべき人達であると云ふ事を考へるのである。それと同時に皆さん自身も、如何な處に自分は嫁ぐであらうかと想像するでありませう。恐く若い女であつてこれを考へないものが在りませうか、私は、是非考へなくてはならない事であると思ふ。それで結婚といふ事に付誤り無い理想をもたなければならぬ。實に婦人の運命はこゝに其の大半が定めれるのである。自分に對して眞に理解のある人であり、金もあり名譽もあり、學德兼備の立派の人をとは誰れも望む所であるが、其等の凡てを悉く備へて居る人は中々無い、偶々媒介口等で數種の美點を備へて居る人であると聞いて喜んで嫁いで見た所が其の一つをも備へて居ないのみか、忽ちにして住居をも引き拂つて、下宿をすると云ふやうな、悲運に泣いて居る澤山の婦人等を見て居ります。これは、自分の研究の足ない處から來たのであつて、自業自得と申さねばならないものである。斯うした運命は、各自の注意によつて、豫防する事の出來るものを、自ら惡い運命に導いて行たのであるから、其の人の頭が足りないと云ふ處に起因すると云はねばならないのである。

□心の轉換

然し一旦この悲運に陷つたものを、唯自業自得だと棄て丶置く事は出來ない。其處から救ひ出す事が出來ない迄も、慰藉を與へ、力を附けてやらなければならない。私は女性特に日本の女性に對して、男子を知る機會が少ない爲めに、其の弱點缺點等を見る事が出來ず悲運に陷る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人の多いのを氣の毒に思つて居るのである。故に譬へ無智の爲めの報いであるにしても、世に重荷を負つて居るものがあるならば、其の荷の内容が何であらうと、相助けて共に其の荷を負つて遣り度いと思ふ。身に錦を纒つて居る人でも涙に袂を濡して居る人の多きを見れば、人生は決して常に樂しきものではない。見方によりては辛いものである。私は是等不運の人々に對して、衷心からの同情の涙を注ぐと云ふ事も必要の事であるが一歩進んで其れを開發する術を敎へて遣り度いと思ひます。必らずしも其の中から出なくても、同じ境遇の中に居て、心其のものを代へよと勸むるのである。曾て私が加奈太に遊んだ時或る雨の日に馬車で田舍を通つた事があつた、其の時百姓が澤山の野菜を瘠せた馬に積んで泥るみを歩きにくさうに行くのを見て、氣の毒に思つたから、『道が惡くて氣の毒だ、天氣がひどいので』と百姓に云ふと、

四

百姓は、『雨が降つて麥がよく實るであろう。……斯云ふやうに軟い土は野菜がよく生長する』と云つて少しも道の惡いのを不平に思つて居なかつた。これは私と百姓とが、全く異つた立場から見て居たからであつて、心の轉換に依つて、惡い運をも幸運に導く事が出來るものであると云ふ事をよく表はして居ると熟々思つた事がある。

口落ち散る幸運

田舍の茅屋の下にも樂しみがある。位が高く名が世界に謳はれて居ても幸運でない人がある何爵夫人は幸運とは全く沒交渉である、唯だ心の光が薄暗い室を照し、今日の境遇に安んじて、内容を充し品質をよくする事が出來た時に始めて眞の幸福が生れるのである。世間には省られない澤山の幸福がある、私共は其の落ち穂を拾つて他のものゝ味ふべからざる幸福を味ひ度いと思ふのである。

（大日本女子教育會講演大要）

(一人一評)

徳富つる子

▲「こうして人樣とお話して居りましても、社から急用で今夜にも直ぐ遠方に旅立つから、用意をせよと電話でもかゝつて來るやうな氣が致します。朝は背廣で出て行きましても、シルクハツトと燕尾服を直ぐ屆けるやうにと申すこと等は度々でございます。私はいつでも何か心掛りがあるやうで、寸時も落付きません」とお仰しやるつる子夫人は、國民新聞社々長兼主筆、貴族院議員として、論壇の雄將、經世家の重鎭たる徳富猪一郎氏の伴侶としては、眞にさもあるべき事であります。

▲夫人はまた四男六女の子福者で、蘆花氏の妻女となつた末女の鶴子さんを、生後直ちに手離された外は、何れも其の膝下に立派な教養を授けられました。そして人も知る如く長女の逸子さんは三宅理學博士に、次女の孝子さんは海老名文學士に嫁がれて何れも輝いしい人生を送つて居られます。「御覧の通り私ももう白髪が大分出來ました。子供等が抜いてあげませうと申しますが、どうして〳〵この白髪は五十年かゝつて染めた名譽の冠だもの、大事にして置かなければと申した事でした」と。平和と光明とを贏ち得たる今日迄の並ならぬ無言の奮闘を語られるのでした。

▲夫君猪一郎氏は常に「お前は家を引受けてくれ、その代り社會にお前の分迄を働いてやるから」と申されるさうで、夫人は晴れの場所に顏さへ出されません。そして夫君の近業を助くる爲めに、せめて頭腦の疲れでも癒すことが出來たらと、熱心にマツサーヂを學んで居らるゝと聞きます。かの光彩陸離たる蘇峯氏の偉業の裏に、かうした内助の潛んで居ることは、忘れ度くないことであります。

（エム、ケイ）

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一夫一婦制

相思相愛の情を哺くむ爲の用意

法學博士　山脇玄

□嫁入資格の女子教育

本問題に移る前に世の父兄に警告したい事があります。近來女子教育が隆盛に赴く傾向のあるのは喜ばしいことですが、娘に教育を施すのはその人格を高め、智識を磨かしめやうと言ふよりも、多くの人は之れを一つの嫁入資格にしやうとする考へらしく見えます。若し果して然うであるなら、夫れは非常に誤つた思想と言はねばならない。之れと同時に兎角父兄は娘の結婚を焦慮して、甚だしきは修學中にその縁談を始め、夫れが纏れば直ちに退校させる實例の尠くないのは甚だ憂うべき現象だと言はざるを得ません。言ふ迄もなく、學校教育は僅かに諸學科の手解きで全く社會教育の準備であるのにそれを理解することもなくして、一圖に學校さへ卒業すれば一人前の立派な働きが出來るものだと考へるのは非常な間違ひであります。少くとも一二年間は尙ほ家事を練習せしめその傍ら娘に適應した手藝でも習はせて萬一の用意をさせるのは、現時の如き世知辛い世に處する賢い手段であることは幾多實例も示してゐるので、世の父兄たる者も無暗に嫁入りを急がずして此の點にも意を留められたいと思ひます。

□娘中心主義の婚約

さて本問に入り、夫の撰擇を如何すれば宜しいかと言ふに、結婚の話の緒が父兄の口から開かれると娘自身の口から開かれることに關せず、娘の意志を尊重し、娘を中心として決めなければなりません。之れを娘中心主義とでも稱へませうか。つまり聟撰びの緒その他の手續きは父兄によつて相當だと認められても、最後の決斷は娘の自由判斷に一任するのであります。此の點が娘中心主義の眼目なのであります。かうして婚約の日の整ふ前に父兄は聟たるものゝ生家の地位、境遇、當人の健康、性質、學業等あらゆる必要箇條を成るべく精細に調査し、娘とも談合の上再三吟味の上愈々完備したと認めた上當事者は時々往來して相互の性質嗜好等を知り合はねばなりません。その爲めには茶話會或は觀劇、或は郊外散歩の名義を借りて常に父兄同伴の上互に親しく交りを結ぶ機會を作れば、次第に親密の度を增し、遂に相思相愛の仲となるに至るだらうと思ひます。

□相思相愛の情を哺む爲

この交際期間の長短は臨機應變で、必ずしも一定しなくも各自の撰擇に任かせて置いて支障ないだらうと思ひます。要は相思相愛の結合が成効するや否やにあるのであります。果してその結合が確的となつた場合には此處に始めて内容的に婚姻が成立するのであります。而して外面的形式の如きは舊慣に從ふとも、新式によるとも夫れは重要事でないから何れでも宜しいでせう。人或は斯樣な交際法は我國では未だ容易に實行の出來ることではない、言ふべくして行はれ難いことだと言ふかも知れません。然し論より證據、下流社會の結婚狀態を見ますに、この社會にあつては既に吾々の唱へてゐる簡易な方法で以て、現に新家庭を作つてゐます。同じ國民でありながら、下流社會に行はれる事が中流以上の社會に實行し得ない筈はないでせう。總ては因襲の墮力である、容易に之れを打破することは六ケ敷しいと思つても、一度斷乎たる

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

決心を以て勇氣を出すなら何でもないでせう。之れは維新の大改革を見ても明かな事であります。況んや婚姻改良の如き世界の大勢に迫られた必要事をするに於ては一層決心の度を高め、勇氣を增すに相違ないと思ひます。

□新舊思想不調和の危險

でこの新制度の結果はと言ふに、之れは未だ一般に普ねく行はれてゐないから、その結果を見て論及する譯には行きません。で已むを得ず現行制度の結果に徴するか、或は原因結果の理法を參酌するか、或は現制度の行はれてゐる他國の實例に鑑みて推斷するより外に是非を論ずる途はない。この邊は宜しく讀者の諒察を乞はねばなりません。現行制度は父兄中心主義であることは勿論で全く世間知らずの箱入娘ならばいざ知らず、人並みに現代の新しい空氣を吸つて大きくなつた女であるなら、強制的のこの押し附け縁に滿足の出來やう筈はなく、何れは破綻が生ずるでせう。即ち新舊思想の衝突ならば恕すべきも、下劣な感情の行き違ひなどが起り、頻りに家庭内に波亂の立つのは實例の示す所で既に明になつてゐます。この場合、新夫たるものは双方の間に立つて宜しく調停すべき筈であるのに多くの孝道を誤み違へて母に遠慮し、中立の態度を取つて平然としてゐます。斯うした新夫の不注意から火の手は愈々熾んになり波紋を大きくするのが實際だとすれば、嫁たるものに盲從の覺悟のない限り永久に平和な家庭を作ることは出來ますまい。最後は常に定り文句の家風に合はぬとか姑の氣に入らぬとか、箸にも棒にもかゝらぬとか言ふ口實のもとにその生家に追ひ歸されねばならない。甚だしきは嫁が姑に白刄を振ふとか、愛兒を抱いて海に投ずるとか言ふ慘めな悲劇の幕が展開される事もあります。之れらは固より嫁の無分別に歸因しませうが亦以て新舊思想の不調和の結果が如何に危險なものであるかを知るに足りませう。

□責任者の相異

しかるに新制度は娘中心主義と稱へて、娘自身が中心となつて最後の決斷を與へ、父兄は之れを後見し承知するに止まるから、すべての責任は常に娘の上に降りかゝつて居ります。故に何時如何樣ことが起つて來てもその時に自身が責任を以て判斷し、適宜に處置して行かねばなりません。若し姑と意見が合はない事があつても誠心を以て融和を圖るでせうし、夫にも事情を打ち明けて助力を借り、最善の途をとるでせう。此の點が新現兩制度の緊要な相異點であります。つまり現制度は兄父が中心となつて縁談を定める故一切の責任は父兄に歸し、娘は唯人に自由に繰られる人形となつてゐるに反し、新制度にあつては娘が中心となるから一切の責任を自分自身が荷はねばならない此處に娘が嫁家に入つてからの氣分の相違が生じ、舅姑その他の調和圓滿を圖る上にも、又家事を整理する上にもその態度に多大の差異がありませう。之れは大にして政府對政黨の妥協の上に小にしては一人の召使ひの上にも見ることが出來ます。妥協した所に責任の中心點が無くなるから自ら不徹底のものが成立し、又一人の召使でも責任を負はせて仕事をさせるのと否とによつて成績が違ひます。況んや婚姻の如き人生の一大事に當つて、その責任者の如何は人類の幸不幸の分岐點でありますから、最も徹底したものたらしめねばなりますまい。斯く思ふ時私達は世界の大勢に鑑み、必要上、必ず自然に新制度に改まるだらうと思ひ、又然うなることを信じてゐます。

噂

▲北村四海氏が矢嶋老女史の大理石像を彫刻して居らるゝが、どうしても女史には八十以上のお婆さんといふ氣分が出難く、二十歳位は年若く見えるのは餘義ないと申して居らるゝ。それもその筈で、背は今に眞直ぐであるし、顔には皺が少く、其の上先年の總入齒で、齒はすつかり揃つて居らるゝ▲四海氏は苦心の結果頭巾を冠つていたゞいた方がよいとて、西洋の老人の着るやうなのを、頭に戴せた處を、彫刻するのださうです。▲今度佛語の中等教員の免狀を取つた木内錠子女史は、今から十年前女子大學に通學當時は、一葉崇拜で、髪も前髪を細く取つて、意氣な銀杏返しにばかり結はれて居りました。江戸川の櫻の下道をいつも學校の往復を中野初子女史と肩をすり寄せ乍ら未來にあこがれるやうな話に夢中になつてゐられしたつけ。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

思ひ切った亞米利加婦人

私信の一節（承前）

在シャトル　片山みさ子

口好みの縞柄

何しろ亞米利加の婦人は、快いほどきびきびして居ます。きびきびした中に、また云ひ知れぬ優しさがあつて、丁度あの比喩が突飛になりますが、セセツシヨン式の器具を見る樣な、素朴な快さを覺えさせられます。着物の柄にしろ、日本のもの丶やうに縞と縞とが纖細な色調をなして居るといふものよりは、思ひ切り派手な棒竪縞、市松の類が喜ばれる傾きがあるのです。

口良人を迎への自動車

夕方五時六時、下町の務めが終る頃となりますと、輕裝をこらした奧樣達が、自動車を手づから運轉して、御良人を迎へに行くのです。（婦人用のは稍小型な車、ギヤソリンで運轉させるのではなくて、電力で動くやうになつてゐます）ぴかぴか光る窓硝子の側には、花瓶があつて必ず時候の花が挿してあるんです。一日事務に疲れた御主人はこのお迎へに、ほつと息ついたやうな顏をして、車内の人となりますと、夫人は又ハンドルを執つて滑らかに人通りの多い町を左右へとわけ乍ら、山の手の電燈明るい家庭へと歸つて來ます。それから手料理も進めればピアノも彈く、新聞や雜誌の中から面白い話題も捜し出して置いて話すといふ工合、實に米人は愛嬌があつて、堅實でい丶主婦だと、その時分ばかりを見た人は美しく感じるとか聞きました。自動車を持ち得ない身分でも、夫人は必ず電車や散歩で良人を出迎へに行きますし、それよりも下つた夫婦共稼ぎではお互ひに誘ひ合せて、睦ましげに腕など擁して歸つて來ます。ですから夕方の六時時分は、何處の街も、この群々で一ぱいになる有樣ですが、餘り見て厭な氣持のしない、善い習慣の一つだと思ひます。

口美麗よりも清楚

私も此の地に參りまして、始めて簡易生活と云ふものが、如何程便利なものかと云ふ事と、それから簡易生活と云ふものがこの地では如何に行ひ易いかを知りました。因襲や習慣がなべての端につきまとふ日本では、なか〱一寸した事でも新らしく自分の創意で行ふことは出來難い事情がありますのに、此の地ではそうした煩ひは少しもありませぬ。自分の日常生活を自分の意の儘に規定して便利なやうに行ひ得るのですから、如何に物質には乏しくとも、自由で活き〱した心持は、いつでも失なふ氣遣ひがありません。かうして遠く離れて見ますと、日本の生活には餘程冗費が多く、煩雜さがつきまとつて居ます。長い袖、重い帶、下駄を穿いて歩く人達に、烈しい勞働を强いるのは、無理にきまつて居ます。當地の生活の簡易さの一例を擧げて見ましても、糊と鏝とを忘れなければ、木綿の着物で、何處へでも差支へませぬ。美麗よりも清楚なれとは、此方の中流生活者の標語なのです。一部の社交的婦人達や、舞臺に立つ女優達は、それこそ成り金氣質を思ひ切り發揮して、吳服屋、裝身具屋の御奉公に餘念ない樣ですが、其の他に於ては銘々自分の趣味に合せ、清楚な樣子をして居ります。新らしい流行があるとしても、それをその儘受け取るよりも、一旦自分の型になほして、創意に近いものとして用ひるといふ風の樣です。

口新らしい發展地

當地はまだ開けてから三十年位しか經ない新らしい市街ですが、それでも東洋方面の交通と、アラスカの鑛山とを控えて居る加減で、仲々發展して居ります。何しろ日本よりは暮しはしよい處でございます。意氣地のない私共の住むのには、最も好適な場所でせう。（後略）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

遺愛のギダ

彈きながら物語る孤島のローマンス

□其洋琵琶を彈き乍ら

『夫れは今から凡そ五十年あまり以前の、さる木枯し吹き荒ぶる冷たい冬の夕暮れであつた。二人のうら若い西洋人――當時では毛唐人と呼んでゐたのである――が、伊豆大島の一孤島の某海岸に何處からともなく……。』とMさんはボロン〳〵と涙のにじみ出るやうな哀音に糸の一本切れたギタをかき鳴らしながら、その影に宿つてゐる悲しい、痛ましい物語を、靜かに〳〵語られるのでありました初冬の月は凍りついたやうに冷たく大空に光つてゐます。その話はかうでした。

□漂着した洋人の夫妻

二人の西洋人――それは何處の國の人だか誰れ一人知るよしもありませんでしたが、夫婦であつた事だけは慥かです。――が大島のさる荒磯に漂着しました。ふさ〳〵と波打つた赤い金髪、碧瑠璃のやうな碧い眼、白い皮膚、高い脊、殊に島人を驚かしたのは洋服と言ふ島中の物識りさへも見たことのない妙な着物と、ベラ〳〵と二人が寄り添ひながら抱き合ふやうにして口早に話してゐる言葉とでした。

『何處から、何をしに來た人間なんだか知らないが、不吉な禍が起らねば宜いが……。』と無知なりし島人は、その心々に憂慮し出しました。二人の男女の西洋人はそんな事には少しも頓着をしない。ゾロ〳〵と島人が後から蹤いて來るのをも意にかけぬらしい平和な面もちをして、大股に濶歩して村をさして歩みます。ベラ〳〵と話をする暇々には、時々後についてくる島人を省みながら白い歯を見せて微笑し、

『何もお前さん達、おそれることはない、私達はお前さん達を幸福にする爲めにこそ來たので決して禍などを起しはしないからね。』と碧い兩の眼に言はせるやうに見えますが、島人は唯どうなることかと安き心もなくて一夜を明かしました。

□一軒の伏屋のうちに

翌日も、その翌日も、二人のその西洋人は村から村へと何のことだか誰れにも分らぬベラベラ話をはなし續けながら、手を組み合つて歩んでゐました。物珍らしい島の人達は、不可思議な人間として噂をし合ひ、果ては、はる〳〵隣の島からまでも辨當持參で見物に來ると言ふ騒ぎになりました。かうして噂が噂を生んでゐる間に、その西洋人達は一軒のいぶせき伏家を借りて住むことになつたのです。嵐に軒が傾き、月は窓をもつても彼等二人はいとも平和に見えました。が平和でないのは島人です。

『どう〳〵あんな所へ住みやがつた。恐ろしい禍がおつぱじまらねば宜いんだが……。』と愈々安き心もなくて幾日かを送りました。

□垣間見る其生活

見知らぬその西洋人は居を定めると磯の波音に合はせるやうに、朝に夕に、靜かな聲で何か歌つてゐます。そしてボロンボロンと寂しい音を立てる樂器をかきならします。暗い夜、垣根の破れ目からそつと家の容子を覗いて見ると、遙か大空を仰いでは何事をか默禱をつゞけてゐる、そして誰れ言ふとなく、あれは耶蘇教信者だと評判するやうになりました。

□純朴な島人の心に

夫れは全く基督の愛の途をひ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ろめる爲めに渡つて來た人でした。二人の心から溢れ出る輝きに充ちた神の教を説く言葉は、純朴な島人を直ちに共鳴させるのでありました。ある女は漁に出たまゝ難船して再び歸へり來ぬ良人を、戀ひ慕つて、中ば狂亂した遣る瀬なき寂しき心に慰めを得、殘る半生を感謝のうちに送るやうになり、又杖とも賴むたゞ一人の息子を失つて物悲しく味氣なき日を暮らしてゐる哀れいとほしき老婆などは、神の御前に招かれる人の幸を讃美するやうになつて、涙の苦い思ひ出も、復活の日の悦びを豫想して慰安されたりして、ボロン／＼と鳴る哀音に合はせて神を讃美し、人からは「天國のお婆さん」と呼ばれるやうになりました。そして此の二人の見知らぬ西洋人がボロン／＼と鳴る名の知れぬ樂器と共に、この島人になくてならぬ心の慰安者になるのには間もない事でありました。このボロン／＼と咽ぶやうに鳴る樂器がMさんの手にかなでられてゐるギタなのです。この音に島人の心が如何に清められたことでせう。淫靡であつた風俗も多くは改まりました。

轉々して私の手に

『それから、』とMさんはボロンともう一つかき鳴らし、『その西洋人は歸へる日が來ました。島人はどうにかして引き止めたいと思つたけれど、その力はなかつたのです。でせめてもの片身にと言つて止められたのがこのギタです。夫れから凡三十年ギタは暗い伏家の壁に立てられて主待顏でありましたが、誰れ一人塵を拂ふ者もなく徒らに、糸はさび行くのみでありました。

或る夏都の若い青年が、此の島に音づれて來ました。顏には云ひ知れぬ苦悶の色が漂ふて居りましたが、ふと、此の島の「天國のお婆さん」に合つて、科學も哲學も解き得ぬ謎を啓かれたと見え忽ちにして見違える樣に活き／＼として參りました。そしてこのギタの由來をも頻りになつかしんで、手にして見るが思ふ樣に彈けぬ、島人等は「あなたが神樣を知つた記念に持つて歸りなさいと」云はれたので遂にギタは都に運ばれ、流れ流れて私の手に、入るやうになつたのであります。そのうち若い西洋人は何處の人か今も尙ほ分らないけれど、ギタは悲しい音に、咽ぶやうに鳴つてゐる。更け行く靜かな夜、寂しい月影を浴びながら獨りかなで、ゐると異郷の一孤島に漂着した人の上が忍ばれて斷腸の思ひの湧くこともあります。彼等二人はこの悲しい音に、遠く故國を離れた寂しい心をどんなに慰安されたことでせう。で私は、このギタの過去を尊重し、讃美歌以外は決して彈きません。今は糸が一本切れてゐますが、昔ながらの哀音を傳へるには充分のやうです。私の愛すべきギタよ。』と言つてMさんは再びかき鳴らされるのでした。(民子)

＊　＊　＊　＊

▷最初の女代議士◁

この寫眞は本誌前號に報道した米國最初の女代議士ジユネット、ランキン女史です。米國婦人さしては寧ろ小柄なさうですが、肉付の美しい美人で、本年三十五歲さ申せば、今將に働き盛りの年輩です。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

歸朝せる本野子夫妻

冬湖生

△威勢能く汽車は著いた——どやどやと『威物』を目掛けて押寄せるやうに、出迎人は知と不知を問はず本野子夫妻の乘つてをる列車の前に進む。と見る中に後部の出口から丸々と肥つた本野子は、禿頭も露はに、強い近眼に足下を要心するらしく、靜かにプラットホームに降りる。

△その本野子に續いて夜目には黑いものづくめに見える洋裝の久子夫人が……一高の制服凜々しい令息の盛一君に扶けられるやうにして、少し上氣したやうな双頰に微笑を湛へながらも、矢張り出口から步廊に降りやうとする時には、何かスカートを踏みでもしたかのやうに、俯目になつて、軈て群がる人波の中に卷込まれた。

△かの寫眞隊の一行は、器械を差上げながらドン〳〵とマグネシユームを燃やす。本野子と夫人を目標に發砲してをるやう——降立つた夫妻は、握手又握手、流石に歐羅巴の外交社會に精鍊された本野子は、この外相たるべく歸つた第一日の光榮に嬉しい表情を浮べながらも、破顏せぬ。稍々腰を屈めて、短軀禿頭の子爵は、低い力强い聲で挨拶と握手を交してをる。

△この本野子の一擧一動に注意してをる中に久子夫人の姿が見えなくなつた——と見れば、子爵から六七間も隔てた處に婦人連の渦卷が立つてをる。その中心點は久子夫人！　寫眞で見るよりは小柄で左程に脊の目立たぬ夫人は、美しいバラ色を潮した頰と涼しい目元に少し皺をよせて、あの奇麗な齒を露はしながら舊知の婦人令孃達と挨拶を交し、忙しく握手してをる。何を云ふのか雜音の爲に、双方の聲は聞取れぬ。が、夫人の優しく力强い、而して外國風の「お〳〵」と云ふ音は鮮かである。

△令息盛一君は母堂なる久子夫人の介添役らしく、如何にも愛しく母上の左側に立つて手を離さぬ。花束を左手に持つた令息と夫人が並び立つた處を快く撮らした時に、このマグネシユームのかげが夫人の目元をかすめたらしく、靜かに盛一君に執られた儘の左手で目の下を拭ふやうにして、相變らず婦人達に挨拶し、握手に忙しい。

△本野子は未だ握手の包圍から脱れることが出來ぬらしく、依然として汽車から降りた處に立たされて、多數の人々から取包まれてをる。露國大使クルペンスキー氏が山のやうに突立つて、人波の中に立つ本野子を瞰下してをる——夫人の周圍には又一しきり寫眞隊が押寄せて、「あぶないワ」「どうしませう？」の聲が錯綜する。

△その婦人達の中でも、殊に一層目立つ瘦形の西洋人らしく、併し和裝した日本の婦人が久子夫人に取縋つて、或は左の頰に、或は右の頰に、感極まつて泣いてをるのか、又は接吻してをるのかと思はれるやうに、容易に夫人から離れず、夫人も固く抱締めた。この有樣は一寸群衆の雜音を鎭めるかと思はれた。が、この脊高い方は井上侯夫人であつた。

△汽車が著いて十四五分、本野子夫妻は未だ步廊に立往生してをるのであつた。（十九日）

× × × × ×

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

今日になる迄

若き婦人の職業案内

専門の職業を營んで居る婦人が「今日になる迄」如何なる經歷を經、辛苦を積まれたかは、やがて若き婦人が自分の職業を撰ぶ案内になるであらうと存じます。以下號を追うて各方面の職業婦人の實歷や意見を此處に掲げて、成るべく徹底した婦人の職業研究を致したいと思ひます。讀者の方々も御質問や御意見を御遠慮なく御申越し下さい。

順調に運んだ私

女醫（三）

井出茂代

□好きな道

私は幼い時から、病人を世話する事が不思議に好きで、十歳にもならぬ時から、女中の腫物を鋏で切開してやつたり致した事がありました。十五の年、母が最後の産に非常に苦しんで、四日目に死産をし、母は産褥熱で暫らくは生死の程も氣遣はれる程でしたが、其の時分枕元を離れず看護して居た私は、どうかして其の苦しみから救ひ出したい、唯母ばかりで無く、世間に同じ苦しみをもつて居る人を救ふには、醫者になるより外に仕方がないと思ふ心から、矢も楯もたまらず醫者になり度いと思ひ立ちました。

□田舍より都に

心だけは速つても女醫となるべき方法を知らなかつた私は、せめて赤十字の看護婦にでもと志して上京したのが明治三十五年でありました。此の時幸にも、吉岡先生の醫専が開校したばかりであつて、私は同級六人の人々と共に其の第一回生となる事が出來たのでした。山出しの田舍娘の私は學校に居る間は、二ヶ年間は鏡一つ見た事もなく、勉强に斗り熱中致しました。

□開業まで

三十七年の春前期試驗に合格し、三年間後期を勉强して、四十年に學說を受け、四十一年實地を取つて、幸ひ一度も不合格の悲運に遇ひませんでしたが、何時も試驗前の半年位は無謀のお話ですが横になつて眠つた事はありませんでした。それから、大正二年の四月今の處（新宿北裏番衆町）に開業いたします迄、先生の病院に在つて、手を取る樣に教へられました爲めに、今日ではどんな患者に遇つても、氣おくれする樣な事は決してありません。

□今日の状態

私の素志は郷里で開業すると云ふ事にありましたが、今一歩獨逸迄踏み出して、勉强を續けて見たいと云ふ考へがありましたから、勉强其の他の都合上、東京に居なければならなくなり、丁度前に此處で開業して居た人の後を其のまゝ、病家百六十軒ばかりと、吉岡先生の持つて居つしやる此の方面の百軒の病家とを頂いて、千五百圓ばかりの資金を投じて始めましたのが、順調に進み、今日では定つた病家三百餘軒と臨時の患者などで、日に平均六七十人の人を診察して行かれるやうになつて參りました。近頃は藥價が暴騰して三倍にもなつて居りますが、施療で無い人でも、先きから代金を持つて來る迄は、必らず、請求しないと云ふ主義ですから、先づ施療患者に要する實費丈が年に四五百圓、歳收は八九千圓を下る事がありません。

歐洲大亂の爲め、暫らくは海外への研究も思ひ止まらければならず、兩親や先生のお勸めもあつて、昨年三十五歳で夫を迎へるやうになりましたから、此の上は、今一層内地に於ての自分の使命を果したいと思つて居ります。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

頭腦の經濟法（三）

薄田斬雲

□晝寢には寢臺が好い

讀書家に取つては、眠いのを我慢して何ほ讀み且つ書く事は全然無意味で且つ大變頭腦を害します、只つた十分位も眠ると頭腦がはつきりするもので、之を我慢したとて何の得にもなりません。處が、日本の習慣は、寢臺の設けがないから、眠い時、簡單に一眠りが出來なくて困ります。押入れから夜具を出させて仕度して居る間に、妙に氣が差して、寢る事が、馬鹿々々しくなり、大變不快を感ずるのです。それに、白晝疊の上にべたりと低く伸べられた臥床の中へ入るのが、嫌な氣持です。洋風の高い寢臺だと、一寸長椅子にでも凭れた氣分で、横になり氣輕く假睡されるので、晝、寢るには一段小高い處が妙です。

□頭腦使用は牛步的

頭腦の使ひ方には、私の經驗で二種あります。少時間に全力を出す事と、長時間に亘り緩りやる事との二ツです。例へば、十枚の書き物をするとして之を二時間に書き上げるとなると、一心不亂、額から汗が浸み出る程の精根を要します、處が同じ仕事を緩り四時間でやるとなると、氣を樂にして烟草を吸ふなり窓外を眺めるなり、然して疲勞も感ぜずに書けます。一氣呵成といふ拙速の場合には一時に全力を出すのが好いのですが、頭腦の經濟法からいふと、之は大變疲勞を來して害になります。能く世間には、大に勤め大いに遊べなど、言ひますが、之も解釋次第の事で、頭腦の經濟法から言へば、氣長く緩りやるに限ります。緩り四時間で仕事を一ツ片付けた時ならば、其後も引續いて別の方面へ頭腦を使ふ事が出來ますが、大急ぎに二時間でやると、其間に無理があるので、其の疲勞が長く續き、四時間目になつても他の方面へ頭腦を使ふ事が出來ません、事情の許す限りは牛步主義が好いのです。藝事や技術の練習などには、少時間全力主義が好いのですが頭腦の使用法には之はいけません。藝事の例で言へば、ベースボールや擊劍柔道の樣なものは、半日もだらだらとやつて居たとて少しも上達しません。一時間で可いから全力で練習すると、ズンズン上達します。又音樂の稽古も同じ事で、考へもなしに、唯だ終日だらしなく遍數を餘計掛けたとて上達しません、高座へ上つた氣で全力に一時間もやつた方が上達が早いのです。處が人間の頭腦の使ひ方ばかりは、此の一時に集注主義は嘘です過勞といふ事は却て大損です。宛かも食ひ過ぎの樣なもので、一旦胃を損すると、當分は食慾がなくなると同じ事に、全然いや氣を催す迄勉强すると、三日も四日も讀み書きが出來なくなります。

□手工の趣味を養へ

頭腦と胃との爲めには手工が適するものです。頭腦が惡い時には、何にも手に物が付かない。其時習字をする人があります。白い紙へ新らしい筆で香の美い墨で字を書くのは、一種の手工です。一向腦味噌の減らぬ仕事です。大工道具でも引出して何か細工する樣な事も大變頭腦を

家庭お化粧 (13)

▼神聖な家庭の象徴▲

▼現代要求の化粧法▲

＝目角顴骨の汚點＝

＝舊式な洗料の失＝

在來の洗身料は科學的知識に缺けた見地から案出せられて居るだけあつて、單に物理的に擦つて落すことにのみ重きを置いて、化學的の作用を考へなかつた爲めに、米糠も、布袋に入れねば使用が出來ないので、いとゞ微弱な化學的作用を有するに過ぎないものを、布地でゴシゴシと擦る力の方が強いので、恰で垢すりで擦つたも同じ結果を見るに至るのであります。

其の證據には、石鹼で顏を洗ひ、手拭などで擦つて洗ふ人、糠袋で顏を洗ふ人は、いづれも皮膚に黑い斑點を生じ、殊に眼角から顴骨の上にかけて、血筋の寄つたやうな痣が出來て、絕

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

休めます。人間は眠つてさへ居なければ必ず何か考へるもので す、考へるといふ事は頭脳の休息にはなりません、欠伸しつゝぼかんとして居るのは決して頭脳の休養ではなく、退屈といふものです。退屈は脳の毒です。此時手工的の仕事のみ能く脳を休ませます。讀書家にこそ神經衰弱が多いけれども、書家や畫家には、餘り神經衰弱がありません。何方かと言へば其の仕事は手工的であるからです。私が此處で手工的といふ意味は體力を要しない手先きの仕事を指すのです。體力を消耗する力役は同時に脳をも疲らすのです。烈しい運動をすると全身の疲勢からして、だるくて讀書も出來なくなるのです。此の意味に於て、音樂とか篆刻とか、婦人なら造花、刺繍、ミシンなども確かに頭脳を休めます。若し夫れ、哲人の、外物に累せられず、淡如として安心立命するが如き境地は、頭脳經濟法の最上ですが、之は頭脳の精神的經濟法で、容易に達しがたい事であるし、且つ此の方面の研究は古來萬卷の書籍があるのだから、玆には略します。(完)

花模様の包紙の利用

大村嘉代子

□古箱を刷る

お菓子折の包紙や果物の籠の上紙には奉書に美しい彩色の花等をすつたものがあります。又芝居で買つた狂言菓子乃至はおもちや等の包紙も美しい色で彩られて居ます。卷紙の上紙や宿屋でよこす手拭や風呂敷の包紙などにも彩色した美しいのがあります。私は此れ等の紙をためておいて破れた行李を張つたり木箱をはつたりします。

□祝儀袋を作る

いつか日本中の各地の宿屋で貰つた手拭の包紙ばかりで、破れた行李を張つた事がありましたが、大變おもしろいものが出來ました。その外にも奉書にすられた美しい書のは別にしておいて、紙の都合で、大小いろいろな袋をつくつて祝儀袋に用ゐます。試みにしてご覧なさいまし、紙のきりやうに依つて大變に風流な美しいものが出來るものです。

やさしい洋風料理

川中雪子

□洋風お握り

御飯の殘りや肉の殘りのあつた場合に、小形のお握りを拵らへ、肉を鹽、胡椒にて味をつけて、心に入れ、バタを溶していためます。これを三つ位に別に馬鈴薯を細長く切り、同じバタでいためたものを附け合して、好みによつてトマトソースなどをかけて出せば、お辨當代りの氣の利いた御馳走が出來ます。

□フイシユボール

この節は鱈が澤山市に出て居ります。鹽鱈の身を細かくこわして茶碗一つに盛り、別に馬鈴薯を細く切つて中山に同じ茶碗に二つ盛り、前の鱈と一緒に茹で、馬鈴薯が軟かくなつた頃下ろしてすり、バタを大匙一つに鹽、胡椒を加減して、玉子一つ(二つならばなほよし)を入れてよく攪拌し、匙で掬つて油にて揚げます。朝飯の卓や、晝の一寸した御馳走に向きます。

えず血脈が表皮の上に現はれて居ることになります、即ち皮膚が枯れて皺が出來、健全な皮膚の營養が缺けて、病的の皮膚となつて了ふのであります、此の例はソレ者上りといはれます人に多く見らる、もので、皮膚土臺の地肌を調へ自然美から眞の美しい容貌になるべき化粧を知らずに、地肌の損じ、皮膚の虐待せられるのも知らないで、美しく見せることが化粧と誤信して居る爲めに、粉黛そのもの、色彩を頼りにした結果でありますから、忘れても舊式な洗身料たる米糠や、新しがつて皮膚の角質を腐蝕せしむるやうな石鹸などを用ひてはなりません。皮膚の營養をよくし、使へば使ふたび毎に美しくなつて生れ代つたやうに垢ぬけのするクラブ洗粉を常用せられて、健全で美しい化粧の土臺、素顔の美を増して行かねば、美しくなる眞のお化粧は、とても〳〵出來るものではありません。(廣告)

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

信ちやんの
信子さん（上）
花崖

そこへバタ〳〵と驅け寄る信ちやんの足音が聞えましたので、跳子さんは我を忘れて戸際へ背を凭せかけ、兩手で開かないやうに抑へました。信ちやんの聲が戸の外で叫びました。

「およしなさい！お母さん、およしなさい！罎を毀したのはお人形ぢやありません。それはあたしと姉さんです。お人形を打つて法はありません。」

すると又別の聲で、

「戸を開けろ、戸を開けろ。」と云ふのが聞えました。跳子さんは直ぐお父さんの聲だと思ひました。彼女が嘘を吐く度にお父さんからひどく叱られるので、かう云ふ場合お父さんの聲は餘計彼女の耳につき易いのです。お母さんは跳子さんを退けて厭應なしに戸を開けました。

「何うしたんだ。」とお父さんは這入るが早いか仰しやいました。

そこでお母さんは之迄のことを詳しくお話なさいました。「人形を打ち初めた火箸を出せ。」とお父さんは仰しやいました。是れや自分を打つ氣なんだなと見て取つた跳子さんは、其處へ我破と身を伏せて泣きながら詫び入りました。

「御免なさい、御免なさい！あたしもう二度と嘘をつきません。」

併しお父さんは聽き入れません。

「免すことはならん。」と云つてお父さんは跳子さんを一度また二度お打ちになりました。「之で免してやる。何うだ分つたか。お前は今夜牛乳が食べられない上に叩かれた。嘘言者は何んな眼に逢ふかつてこと覺えてるがいゝ。」と今度は信ちやんの方を向いて、「此方へお出でよ信子。お前も牛乳抜きでお夕飯を食べなけれやならん。がそれは仕方がないとして、兎に角お前は嘘を云はなかつた。お父さん達は大層うれしく思ふ。そこでねお前は人形が打たれるのを救つたから、此人形はお前にあげて仕舞はう。可愛がつておやり。明日はお母さんに教はつて、人形に新しい着物を縫つてやるがいゝ。今日から此人形は花子さんと云ふのはやめて、お前の名に因んで信子さんと呼ばう。」

信ちやんは急いで信子さんを抱き上げて、熟々と其顏を覗きますと、信子さんは世にも嬉しげにニコ〳〵笑つて居ました。

廣告

最善なる音譜は最も廉價なり

◉全國第一等の音譜製造會社の肉聲原盤を一枚に精良盤を加へ全部十枚にて

金參圓也

◉これほど安く賣る店は他にありますか？

うそか誠か、御註文を願ひます。大勉强を以て御要求に應じます。御註文は一組はオロカ御指定の曲目一枚でも早速御屆け致します。

日本蓄音器商會
帝國蓄音器商會
東京音譜製造株式會社
東京蓄音器株式會社

特約店
小石川區原町三番地
（白山電車停留所前）
三美堂蓄音器店
電話番町四四六一番

發賣元

改良經濟紙四十枚分一帖金三錢他店にて買ふ事の出來ない半紙代用紙があります一度御試用を是非御勸します

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小說

暗調（四）

てい子

麹町に住むSといふ英人の許に日本語を教へに行くのが不二の仕事の一つであつた。米國で生れたといふ夫人は、快活な子供のやうな輝きをもつてゐた。不二の教へる易しい日常語や書物の中の文章を、すぐ役立てやうとしてをかしい言葉を創造しては不二を笑はせた。決まつた勉強のほかに書きもの丶手傳ひなどもした。

可愛い丶柔い音聲の夫人はよく歌つてきかせた。田舍で育つた幼時の思ひ出を話すこともあつた。「秘密といふものをたまらなくほしい時代があつて、父親のお髭の中に白髪を一本發見した時はほんとにうれしかつた。それを大切な〳〵秘密にして一人でたのしんでゐたものだ。庭の隅に小さい薔薇の芽生えを見つけた時は弟も一所だつたので二人の秘密にする約束をした。でも弟はそれを姉さんに言つてしまつたので口惜しくて、三日も弟に言葉をかけてやらなかつた」など丶夫人は語つた。夫人の傍にをる時に不二は、小舟に乘つて靜かな湖水に浮いてるような長閑さを感じた。

『若い日』に面被をきせておく人を御存じ？」と不二の顔を覗いて「それはあの人」と指先に面白い輪をつくつて、わざと不二の方に向けたり「あなたが俳優だつたら、戀を失つた詩人に扮するのが一番よく似合ふと思ふ」と笑ひながら不二の細い肩を抱いたりした。夫婦の親しい人丈けを招いで茶話會のやうな打とけた會合がをり〳〵そこで開かれた。招かれて來る人の顏ぶれは大抵きまつてゐた。吉村もそのうちの一人であつた。

こういふ機會で二人は近づきになつた。でも久しい間二人は頭丈けの友であつた。不二は人に對する時に纎細な注意を自分の心理に向けることを忘れない女であつた。若い異性に對してはことにそうであつた。いつも豫防線をはつて心と心との深い交渉をさけようとした。吉村と話すときもそういふ意識が鈍つてゐたわけではなかつた。でもいつの間にか廻らしておいた垣根をほどいて容易に人に開かなかつた自分といふものを吉村の前に開いていつた。不二は自身でさへ偏狹だと思ふある考へや感じが、吉村によつて價値づけられることを知つた。そしてぼんやりした不定な形の思想でも吉村と話す時に、彼は豐かな彼の想を加へて、はつきりした理論に整統して不二の頭にかへしてよこした。不二はそういふ時に大變うれしかつた。自分の生存に張り合ひを感じた。彼女の内にたゞ暗く凝結してゐた感情までも、吉村は歡びの流れに變へた。然し不二は彼に向ふ異常な心のうごきを知つた時に、「もしか？」とあわて出した。それに戀といふ名を冠らせるのを不二は厭ふた。むしろ怖れた。そしてグン〳〵と彼女を引こんでゆく強い能動を意力の下に壓伏しやうと悶がいた。

かたく閉しておいた心の扉を私は知らない間に彼の前に開いてゐた。彼は靜かに、ほんとに靜かに、私の内に這入つてきた。そして牢獄の壁のように鬱黒さしてゐる私の胸に曙の光りをなげはじめた。その神秘な閃光に、その奇しき魅力に、私は射すくめられ索きつけられてゆく。私の生命は光りに向つて舞踏する。唱ふ。けれどもこの歡喜の永續は私にゆるされない。血に

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つながる暗の大渦は苛虐な手
をのべて幸ひなこの光りをさ
へ奪つて行くだらう。

紅き異象よ
わが呪ひの前にかげをかくせ
汝の魔術を
ながく我が心に弄するをやめ
よ。

真夜中にふとさめて、
私の心は廣い野に走しる、
暗は大空のはてからはてに、
野の隅から隅にまで、はひひ
ろがつてゐる、
たゞ暗寥な曠野、
その冷い地に伏して、
私の靈魂は咽びながら、
かくれた悲しい愛をなげく。

さやうなら、――よ
私はお前と歩みを共にされな
い、
私の體には黒い「狂ひ」の血が
流れてゐる、それが突風のよ
うに捲きあがつてきて、いつ
私の心から「正確」を浚つてゆ
くかわからないのだ。
こういふ汚點ある恐ろしい胸
に、私はお前を抱いてはをら
れない。
育てゝはおけない。
ゆるしてくれ、――よ。
私は私の力一杯をこめてお前
を投りだす、どうかあともな
く砕けてくれ、
消えてくれ、
再び私にかへつてくれるな、
私はさびしい「孤獨の穴倉」に
こもつて、生涯お前のために
「葬り」の悲しい唄を歌はふ。

捨てゝしまつた、追ひのけてしまつた、ふみ砕いてしまつたと思ふ彼の幻影がいつの間にかまた私の心に戻つてゐる而かも執拗に大膽に私の心を占領してゆく。生々と根強く成長してゆく。私は彼との戦ひに疲れた。どうすればよいのか。苦しい。」

不二の日記は彼女丈けにわかる謎の言葉で埋まつていつた。彼女はふしぎな謎の異象をかゝえて、讃つたり呪つたり悲しんだり戦つたりした、けれども謎の贈り主である吉村からも彼の心の謎を見せられた時、それは二人の心から心に通ふ純直な戀愛であると認めないわけにいかなかつた。同時に不二は更にはげしくそれを拒んだ。

讀者から

▲大阪文枝様から「終日忙しいホテルの働らきを終つて、かうして小さいベツトの上から、浪花橋を窓外に眺めつゝ、今し婦人週報を手にして、其の高潔なる讀み物に、何とも云へぬ愉快を覺えました。そしてこの土地に御誌の如き讀み物が、どんゝ輸入されて、家庭の道德、婦人の覺醒が行はれたらと願はれます。追々夜も長くなります。かういふ社會に語らるゝ面白き語り草がありましたらお知らせ致しませう」▲東京さう子様より「御誌前號の大杉氏神近氏事件に對する態度はほんとうに氣に入りました。否定もなさらず、肯定もなされぬ間に、私はいろくゝ自分で考へる餘地があつて面白うございました。殊に社説の「心の訓練」と、馬場孤蝶氏の「戀愛に基く葛藤」と山脇博士の「一夫一婦制」とを拜見して、其處に一貫した指導があるやうに面白く拜見、返すぐゝも御骨折のほどお禮を申し上げます」

▲朝鮮某氏より「冷たい空風が京城の町を吹き巡つて、煙草をくゆらしながらゆたりくゝと歩む鮮人の白い服も、一層寒げに見ゆる時となりました朝鮮も此の數年日に日に開けて全く面目を一新して参りましたが、なほ本土の風物は事毎になつかしまれて、また數ケ月を溫突の中に暮さなければならぬと思ふと頻りに紅葉に菊に年中樂園のやうなよい氣候の地が羨まれます御誌はいつも遠く隔る私共に都の音づれを運んで來るものゝ如く、隅から隅迄一字も洩さじと拜見致して居ります最も困難な週刊雜誌をこれ程迄に基礎をお作りになつた一年の御努力に對して、滿腔の敬意を表します。我が婦人界の爲めにも誠に喜ばしき事と存じて居ります。」

前號の「讀者から」に掲載した川島政子樣よりは北米カリホルニヤ州バークレーよりを誤つて布哇よりとしましたから正誤致します。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

時事

口聖上御還幸　肥筑の野に三軍をみそなはせられたる大元帥陛下には、御統裁を終らせ給ひて、十九日午後四時卅分御還幸遊ばされました。

口皇后宮音樂學校に行啓　十六日　皇后陛下には、音樂奬勵の思召を以て上野なる東京音樂學校に行啓あらせられました。この光榮ある日、御前演奏の譽れを擔ひたる人々は中田助敎授、助敎授久野久子、聽講生長坂好子、講師小倉すゑ子、聽講生田中ひさ子、船橋講師、多、萩原兩敎授等でありますが、特に大亂中とて、獨逸物を御遠慮申し上げましたのに對し　陛下には「藝術に國境なし」とて、獨逸物をも望ませ給ひしにより、多年獨逸に遊學せる小倉女史に命じ早速シユーマン作「鳥の豫言者」をお聽きに達しましたのは、畏こき極みであります。

口立太子禮御饗宴　立太子禮後の御饗宴は御都合によつて御延期あらせられましたが、來る二十七八日の兩日、宮中豐明殿に於て御擧行のことに内定せられました。尙ほ當日の鮮魚は虎疫全く終熄せざる折からとて、朝鮮より御買上の事に定められました。

口風雨を冒して御觀戰　皇太子殿下には、十八日近衛師團の旅團對抗演習に臨ませられ、風雨の御いとひもあらせられず、御野立所に於て熱心に御觀戰あらせられました。

口御名殘りの運動會　十九日學習院、初等科では東宮殿下の臺覽を仰いで、六學年御在學中なる高松宮宣仁親王殿下御名殘の運動會が催されました。御運動中高松宮殿下には徒歩二百米突競爭にて三等賞を得させ給ひました。尙當日東宮殿下には、校庭に建設されたる、立太子式紀念碑を御賞覽遊ばされし由承ります。

口御裝束の下賜　昨年御大禮に、天皇陛下が召し給ひたる御裝束の一式は、豫て御内命ありし通り、今回愈々御室仁和寺に安置の　聖德太子尊像に御下賜となりました。之れは中古以來歷代の恒例を追はれたもので、本月末に從來着用の、明治天皇御即位式御裝束を脫ぎ、十二月一日御更衣大法要を行はるゝ事に決定いたしました。

◉墺國攝政策立　墺國老帝フランツ、ヨセフ一世は、近時心身大に衰へ最早國政を見る能はず、遂に皇位繼承者カール親王が十二月二日より攝政として立たれることになりました。親王は　老帝の弟カール、ルードウイツヒ親王の孫にして、一昨年兇刄に斃れたる、フランツ、フエルヂナンド親王の甥に當れる由です。

◉露國最後迄戰はん　露國陸海相は十七日議會に於て政府が戰爭を最後迄斷行せんとの決心は決して渝る事なきを保證しました。

◉獨帝の羅國破壞命令　獨逸皇帝は羅馬尼國を破壞すべしと其の軍隊に命令したと傳へられます。

◉食料品條例發表　英國食料品條例は官報を以て發表せられ、左の權限を商務院に與へ之を管掌せしむる事となりました。(一)、總べての食料品の浪費を禁ずる事。(二)、各食料品に付き浪費と必要との限界及び使用範圍を設定する事。(三)、食料品の製造產出及び之を一般に供給する方法並に市場を調節する事。(四)、最高價格を定むる事。(五)、裁定官の今後制定する條件の下に民間の貯藏品を徵發する事。(六)、貯藏品賣買契約製產費其他に關する報告を要求する事等。

◉大亂の誘起者逝く　歐洲大戰爭を誘起したる當面の人物なりと云はるゝ、駐墺獨大使チユイルシユキー伯は腹部手術の經過不良にて十五日逝去されました

◉逝ける三大家　▲自費の觀測所主　パーシバル、ローエル博士は曾て『火星に人類に似たる生物が棲息して居る』と云ふ事を發表した天文學者ですが十二日腦溢血の爲めに逝かれました、氏は今から六十一年前ボストンの名家に生れハーバート大學を卒業後專ら天體の觀測に沒頭して居りました。▲大書家コラン翁　我美術界唯一の恩人たりし、ラフアエル、コラン翁は、去月廿日享年六十七歲をもつて巴里に死去しました。翁はカバネル氏に學び、廿二三歲の頃サロンに出品して、一躍大家の群に入り、一九〇二三年頃には學士會員として最高の名譽を得、サロンの審查員をも永年勤めて居りました。性質は極地味な人で、終生獨身で終はられた人であります。我が黑田、久米、和田、岡田、近くは山下、和田三造氏等は共に翁の敎へを受けた人々です。殊に翁は、我國から多年の勳功によつて勳三等に敍せられて居ります。▲「何處へ行く」の作家　波蘭の愛國小說家として有名なるヘンリツク、シエンキウイツチ氏は十五日瑞西の一旅館に於て逝きました。氏は一八四六年に波蘭ロシアの一洲に呱々の聲を擧げ、長じてワルソウ大學に哲學を修め、廿六歲の時處女作を發表して以來幾多の名作を出して居りますが、中にも『何處へ行く』は最も喧傳せられたもので、今日に至る迄に三十箇國の語に譯されて居ると申します。氏は一九〇五年文學上の貢獻によつてノベル賞金を受けました。享年七十歲。

◉英國藝壇の論爭　歐洲大亂の爲め、多くの名士を戰場に送つて居る事は、已に聞知して居る處でありますが、近く有名なる藝術家、特に沙翁劇の役者として英國隨一の稱ある、ヘンリー、アインレイの出征に際して盛んに反對の聲が高まりました。即ち科學者や技師等有能の士は、悉く其の長ずる所に從つて國家に貢獻するを許されて居るのに、獨り人間史上に極めて稀れに出づる藝術家が、其の例に漏れる理由はないと云ふのにありますが、時節柄戰場に送るのが至當であると云ふ說が勝味であると申します。

◉近く來遊の噂ある小說家　米國の小說家として、世界的聲名を博して居る、ジヤツク、ロンドン氏(四三)は、來春匆々愛妻と共に我國に來遊すべしと傳へられます。氏は著述家中の富豪であつて、三百萬圓の資產を有し、加州に宏壯な山莊生活を營んで居ります が、午前中は必らず日課として、一日一千字の小說を執筆し、一字十五仙の割合で一日に百五十弗の收入を得る事になつて居ると申します。尙ほ氏の前半生は、船渠の大酒家であつたのですが、彼等の群から覺醒して、後學校生活に入つたもので、非常に開放主義の人であると申します。

◉贈位發表　天皇陛下には大演習を終へさせられたる十五日、特旨を以つて、同地方の勤王家並に產業功勞者廿六名に對して贈位の恩命を傳へさせられました。

◉三大將親任　十六日陸軍中將井口省吾氏、同大谷喜久藏氏、同秋山好古氏の三中將は各大將に任ぜられました。

◉本野大使夫妻歸京　現内閣の外相たるべき本野子夫妻は十九日夜八時廿五分、千餘名の出迎ひを受け、莞爾として鳥居坂の自邸に歸へられました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●日米間無線電信開始　既報の通り兩國間の無線電信は十六日から開始され、米大統領よりの御祝電、聖上よりの御答電を始めとして、第一日の發着總數は二千語餘に上りました。

●大都市聯合教育會　三府及び横濱、神戸、名古屋、仙臺、廣島、金澤の九大都市聯合教育會は、十八日から四日間東京府參事會室に開かれました。其の主なる研究案を聞くに、（一）市民に對し協同的精神の涵養を努め（二）市民の肉體的鞏固を計る適切なる方法を講じ（三）各工場を成べく公開せしめて市民の常識を發達せしめ（四）兒童の將來を慮り適切なる職業的志望を選定すること等で、其の第二日目には、小學校に看護婦を置き、尚ほ教育會では、通俗教育を有効ならしめる爲めに、教育活動寫眞館を特設し、辯士を養成する事及び十四歳以下の小兒の一般活動寫眞の見物を禁止する事等を可決しました。

●花柳病の根本的調査　年々壯丁檢査の結果を見るに、花柳病患者の數は、年と共に増加を示して居りますから、内務省では去る十五日各醫科大學を初め、官私立病院に委囑して、之が根本的調査を開始する事になりました。單に個人の問題としてのみならず、國家の生産上、人口上の大問題であるからとて來春は匆々其の諮問會を開いて、一層研究を進め、適宜の豫防法を講ずると申します。

●百萬圓で商船學校設立　神戸川崎造船所副社長川崎芳太郎氏は、我國海運界に貢獻する目的にて、百萬圓の私財を投じ、獨力で商船學校を設立する事に決しました。土地は阪神間に於て適當なる所を擇び、縣立同様の程度にて明年中に開校の筈です。

●文展閉會　上野の秋を賑せた文展も愈々廿一日を以って閉會となり、廿七日からは京都で開かれる筈であります。廿日迄の總入場者は二一、七八三〇人で昨年に比して四、四四一三人多く、切符賣上の總額は、二、三九〇一圓十五錢ありました。賣約品は日本畫五九、洋畫一九、彫刻四、價格二、四〇七〇圓、他に御買上品は宮内省、皇后職、政府を合せて十二點ありました。

●四十餘名の裁縫教員　この程文部省の檢定試驗に、合格した裁縫教員の數は四十名を越えましたが、其の中茨城縣出身の野川八洲子は本年廿一歳で、中等教員試驗合格者中稀に見る年若の人であると申します。

女學校だより

△共立女子職業學校　去る三日行はせられた立太子禮の祝典を奉祝せん爲め、職員生徒は美麗なる松と藤とに爛熳たる菊花造花の大花籠を謹製し、先頃東宮殿下に奉獻の手續を了しました。

個人消息

▲松原トヨ子　明治貿易會社々長にして、村井本店理事なる松原重榮氏の令閨トヨ子夫人は、此の程淋巴線癌にて逝去せられましたが、夫人の遺志によって、同氏は此の度金一千圓を癌研究所に寄附せられました。

△海老名みや子　夫君彈正氏と同伴、廿日臺灣に向け出發、各所に傳道して、來月十日頃歸京の筈。

編輯室より

▲最初からの讀者として、一年分お拂込み下すった方が多數ございますが、恰度前月で前金切れとなった筈でございますから、此の際振替を御使用下すって、御拂込み下されば最も好都合に存じます。もしそれが御面倒ならば、集金料の半額三錢を御負擔戴いて、御申越しによって、振替の集金郵便を御送り致します故、御手數ながら、御一報下さいまし▲本誌の一周年記念號は、至る所に好評を博し、引續いての誌面に一段の光彩を添ゆるやうになったとのお言葉を續々頂戴して、同人の喜びは、これに過ぎませぬ。御愛讀下さる方々が多數ありと思へば、いかなる事も荷にならずに、樂しんで、日々忙しい仕事に從はれます。▲雨の多かった今年は美しい紅葉を見せる暇もなく、もう大方槍は朽葉色になったのが、もう一と月を餘すのみとなったと、一しほせき立て顔に見せます。

人事相談所

□本所は婦人週報社の附屬事業として、世の煩悶に惱める男女に同情し、精神上、生活上、其他有ゆる相談に應じ、最も善き解決を與へます。

□本所は絶對秘密の下に、結婚調査、人物調査、財産調査、男女學生品行調査・裁判上の證據調査等の御依頼に應じ、親切と誠實を以て其の任に當ります。但しこれは依頼者が至當と想はれる程の低廉な調査料を申受けます。

□本所に御相談なされたい方は、書面にて申越されるか、若しくは直接面會に來て下さい。面會時間は日曜水曜を除くの外午後零時より、午後四時迄です。

東京牛込區市ヶ谷田町二丁目十七番地
婦人週報社内（電話番町四五六六番）
人事相談所

婦人週報
（毎週金曜發行）

定價表
△壹部金五錢（但し郵送料五厘を含む）
△一ヶ月（四部又は五部）金二十錢
△三ヶ月（十三部）金六拾錢
△半年（廿六部）金壹圓拾錢
△一年金貳圓廿錢

廣告料
△特等（表紙の二、四）金參拾圓
△壹等（表紙前付三、白紙）金廿五圓
△貳等（色紙の表側）金廿貳圓
△參等（色紙の内側）金貳拾圓

注意
▲御註文は一切前金の事▲郵券代用は必ず一割増の事▲送金の爲替名宛は東京市牛込區市ヶ谷田町二丁目十七番地婦人週報社▲振替口座は東京三一六六〇番▲雜誌發送を以て領收書に代ふ

發行編輯兼印刷人　小橋三四子
東京市京橋區銀座四丁目一番地
印刷所　福音印刷合資會社東京支店
東京市牛込區市ヶ谷田町二丁目十七番地
發行所　婦人週報社
振替口座東京三一六六〇番
電話番町四五六六番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

御註文の節は婦人週報にて見たる旨御記入を乞ふ

■會員募集 ■講義錄つき見本 ■會則 申込次第端書にて無料進呈 ■卒業十ケ月

最新和歌講義錄

■講師は博士學士文壇一流の大家なれば將來最も便宜多し

■會員自作の長詩及短歌無料添削

■講義は極めて平易明快懇切加ふるに最新知識を傾倒す

■會員諸氏の詩歌練磨に機關雜誌毎月無料進呈

目下大特典あり 至急入學者に限り(特別優待)

入學絶好機來る

■會費至廉待遇懇切

■東京小石川豊山大學前 振替東京三三四三九番 大日本和歌講習會

家庭衛生講習會

一、目的　家庭に必要なる衛生及衛生マツサージを教授す

一、場所　赤坂區新町三丁目四十六番地婦人矯風會本部內

一、期間　自毎月十六日至次月十五日　月水金　午後二時より四時迄

一、講習料　金十圓也(前納の事)

一、人員　十名を以て定員とす

一、證書　講習修了者には修了證書を交付す

一、特典　講習修了者は會員として隨意に傍聽又は研究する事を得

職業として更らに研究し度き方は以後二年間當所に於て實地研究(無料)を積まるれば出願の履歷書に證明を與ふ

一、主催　婦人矯風會東京部會

一、講習主任　醫師藤井孝

右御希望の方は至急赤坂區新町三丁目四十六番地婦人矯風會本部電話芝一七五三に申込まれたし。

肝油服用者之福音

諸大醫の賞讃

最新式の軟質膠球劑絶對に臭氣もなく美味に飲めるは此肝油球である

三百粒入 壹圓
百粒入 七十錢
五十粒入 四十錢
送料各八錢

肝油球の特効

身體の弱き人
かぜ引き易き人
腺病の人
夜盲の人
冷え性の婦人
肺の惡しき人
貧血にて艶のなき人
油氣の少ない人

發賣元 東京市赤坂區田町五ノ一
工場 東京赤坂新町三ノ三十二
藥劑師 富谷宗吉藥局
電話芝六二八〇番
振替東京七〇八一番

——體力精力増進に今が肝油服用時期——

高木鐸子考案

鳩印安全下着

大人用 大 五十錢 小 四十五錢

子供用 大 六十錢 中 五十五錢 小 四十錢

カンビネーション

型紙何れも五十錢

ピーナツトバター 一罐 四十錢

婦人週報社代理部
振替東京三一六六〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

診察毎朝及毎夕但祭日及日曜之他
院長診察 月、金、木午前及(木)午後六時
林、峰間兩副長は目下當院に在勤
東京三番町三十番地(市ケ谷見附内)
電話番町 六二番

東洋内科醫院

院長 醫學博士 **高田畊安**

電話ちがさき二番

南湖院

神奈川縣茅ケ崎海濱(從停車場半里)
河野、高橋兩副長は目下當院に在勤
院長診察 土曜日 午後入院診後應需
診察毎朝但祭日及日曜及土曜之他

クリーニング

殆んど一滴の水を用ゐずして如何なる汚れも**新調**同様になります

和洋服**外套インバ**(東コート)**ネル・セル・ショール半襟毛皮**等のクリーニングと染色を**丁寧親切**迅速に致します

○局部シミヌキ
○御一報次第參上

各國大公使館御用
帝國ホテル御用

日比谷クリーニング商會
日比谷公園停留場際
電話新橋三一〇八

古本 **高價に買受ます**
御一報次第何時にても參上します
牛込區早稻田鶴巻町百十一
文學堂書店
電話呼出番町九四一

産科、婦人科、小兒科
女醫 **井出茂代**
東京府内藤新宿番衆町卅一番地
電話番町三六七七番

内科 小兒科 **第一家庭病院**
院長 醫學士 **加用信憲**
(入院隨時)
牛込區矢來町二十四番地
(電話番町二八〇二)

内職を奬勵する
大日本婦人手藝會

本會は一般家庭の内職を奬勵する爲に、編物、刺繡、綿細工、造花、袋物、摘細工等日本婦人に適當な手藝を無料でお敎へして、何等の素養の無い方でも、數日の中に賃銀を得られるやうにおさせ申したいのです。製作品は本會で永久に引受けて輸出品とし、一方我が國の富力の幾分をも助け、皇恩に報い奉りたいといふ望みです。婦人週報第四十三號掲載の山脇博士のお説に御同感の方々には最も適當な會と存じます。もし本會の趣意に御賛成の會員が數人一と所にあれば出張敎授も無料で致します。
詳細は郵劵二錢封入お申込み下されば規則書をお送りします。

東京麴町區富士見町五ノ二
(靖國神社横)
大日本婦人手藝會

◎産婦人科◎小兒科
宅診午前 往診午後
病室、産室ノ設アリ入院ノ需メニ應ズ
院長 女醫 **吉岡彌生**
東京至誠病院
東京市麴町區飯田町四丁目卅一番地
電話番町 二三五七

料理講習會

會席料理
每週土曜日 午前中
會費一回卅五錢
束修五十錢
外に主婦以外の婦人の爲

西洋料理
每週月、金 午前中 主婦の爲
會費一回五十錢
束修五十錢

每週水曜午前中開催
會費一回五十錢束修五十錢

本郷區彌生町三番地
電話下谷六八一五番
櫻井女塾

御注文の節は婦人週報に於て見たる旨御記入を乞ふ

■上品で役に立つ理想的の婦人雑誌■

十二月號内容も外観も他に類のない雑誌

本月も賣り切れぬ内今スグ御求めあれ

婦人雑誌

既に出來
各書店にあり

□表紙（冬枯れ）石版極彩色

寫眞口繪版

□サンタクロース
□松韻翁忌念演奏會
□姉と妹
□飢ゑたる野猪（泰西名畫）

□口繪（歳暮）石版極彩色

□婦人海外留學生
□花の日會
□嘆ける女（泰西名畫）
□投入花のお稽古

讀者文藝

○短文○長詩。和歌○俳句○おとづれ外に○手紙（凸版）○繪本（凸版）◎紹介等

◎人情上より……文學博士 幸田露伴
◎クリスマスは皆様に何を與へませうか……長井長義
◎あゝ此の様に悲惨な結果な……醫學博士 福士政一
◎無線電話……文學士 エッフエル塔
◎安全第一の生活法は……文學士 小林愛雄
◎婦人職業排す可からず……主筆 山田延彌
◎日本女性の今後に負へる使命……木村鷹太郎
◎家庭童話「賢吉鈍吉」……文學士 高木敏雄
◎モンナヴンナ（泰西悲劇）……村上靜人

歳暮の整理

○贈答品の選擇や雇人への心附……今井晴子
○お臺所の整理……櫻井ちか子
○補綴のいろ〳〵……たみ子
○炭のお買ひ入れには……豐田屋主人 室田正之助

迎年の準備

○正月の室内装飾……森下櫻甕
○正月のお化粧……橋本たま子
○晴着のきこなし……高谷白酔

◎胸算用……伊原西鶴
◎嫁げる後の驚き……桐谷しづ
◎風をひかぬ御工夫……醫學士 今井金三郎
◎姿の美しさ……成瀬慶子
◎收入と所得の種類……井上秀子
◎投入れ花の入れ方……久野連峯
◎十二月の客膳……手塚かね子
◎良い牛乳と惡い牛乳……記者
◎白粉になるまで……記者
◎クリスマスの贈物には……記者
◎眞紅（小説）……田村俊子
◎十六の惱み（小説）久保田富江

發兌 東京市神田區駿河臺鈴木町 婦人雑誌社 電話本局 三一八五番 振替東京 三三一六〇番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA